

授業科目名	ドレーピング&製図		講師名	中島 由紀子
実施 学科・クラス	アパレル技能科テクニカルコース		分別(必修・選択・ 自由選択)	必修
授業方法(講義・ 演習・実技)	講義・実技		場所 (校内・校外)	校内
授業科目 概要	立体裁断としてトルソーボディを使用し、シーチングを用いて実際の形を作りながらパターンを作成する。			
習得 技術・知見	実際のボディのフォルムに合わせながら、ライン、ダーツをとり形を表現していく。その後、製図におこなってパターンの仕組みを理解する。			
企業連携 (連携企業)				
使用教科書 他教材	パターン検定3級、シーチング、シルクペン、定規			
授業課題	製品、デザイン画を基にした立体裁断。ピンワークにおける作品製作。			
合計時間数	97.5	1年・通年		
授業計画及び学習の内容				
回		ステップ・課題目的・目標	内容	
1回	4/10	(4/7オリエン)	Aオリエン B・C基礎縫い	
2回	4/17		A基礎縫い B・CセミタイトSK	
3回	4/24		A・B・CセミタイトSK	
4回	5/1		A・B・CセミタイトSK	
5回	5/8	原型	*シーチングの扱い方	
6回	5/15	↓	*アイロンのかけ方	
7回	5/22		*ピンの打ち方	
8回	5/29		*縫い代の付け方	
9回	6/5		*組み立て方	
10回	6/12	セミタイトSK	*ラインの修正	
11回	6/19	↓		
12回	6/26			
13回	7/3			
14回	7/10			
15回	7/17		前期終了ショー	
16回				
17回				
18回				
19回				
20回				
21回				
22回				
23回				
24回				
25回				
26回				
27回				
28回				
29回				
30回				
31回				
32回				
33回				
34回				
35回				
36回				
37回				
38回				
39回				
[成績評価方法] 授業への参加・意欲・習熟度を100点、製作課題の評価を100点、定期試験を100点としてその平均値を算出し成績評価を行う。なお、出席率が75%未満、成績評価が60点未満の場合は補習の対象となる。出席率が65%未満の場合は、留年。				
[授業の特徴・形式と教員紹介] 学生一人ひとりに立体トルソーと作業台を用意し、作業実習を通して技術の習得を目指す。 担当教員は株式会社キヤングなどでパタンナーとして勤務した経験があり長年の現場経験を活かし実践に即した製図・ドレーピングドレーピングの授業を展開する。				

授業科目名	テクニカル工芸	講師名	樽谷孝子
実施 学科・クラス	アパレル技能科テクニカルコース	分別(必修・選択・ 自由選択)	必修
授業方法(講義・ 演習・実技)	講義・実技	場所 (校内・校外)	校内
授業科目 概要	手芸の装飾テクニック技法を理解と基本技術習得する。		
習得 技術・知見	立体スモッキング・つまみ細工・装花		
企業連携 (連携企業)			
使用教科書 他教材	オリジナルプリント		
授業課題	手芸の装飾、つまみ細工、装花等、オリジナル作品。		
合計時間数	87.5	2年・通年	
授業計画及び学習の内容			
回	月 日	ステップ・課題目的・目標	
1	4月13日	立体スモッキング	シーチング・手縫い糸
2	4月20日	立体スモッキング	
3	4月27日	立体スモッキング	
4	5月11日	立体スモッキング	
5	5月18日	作品制作	
6	5月21日	つまみ細工(丸つまみ)	一越ちりめん・ボンド・ワイヤー・台紙
7	6月1日	つまみ細工(剣つまみ)	
8	6月8日	つまみ細工(縫いつまみ)	手縫い糸
9	6月15日	装花(リボンワーク)	こて・染料・ボンド・ワイヤー・アルコール(ランプ用)
10	6月22日	装花(ぼら)	
11	6月29日	装花(染色)	
12	7月6日	装花(こてあて)	
13	7月13日	装花(まとめ方)	
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			
39			
[成績評価方法] 授業への参加・意欲・習熟度を100点、授業課題の評価を100点、定期試験を100点としてその平均値を算出し成績評価を行う。なお、出席率が75%未満、成績評価が60点未満の場合は補習の対象となる。出席率が65%未満の場合は、留年。			
[授業の特徴・形式と教員紹介] クラフト手芸の表現技法により、衣装製作現場の即戦力となりうる授業を展開する。 担当教員は舞台衣装、手工芸の講師をされている。			

授業科目名	舞台衣装製作実習		講師名	鷺 典子
実施 学科・クラス	アパレル技能科テクニカルコース		分別(必修・選択・ 自由選択)	必修
授業方法(講義・ 演習・実技)	講義・実技		場所 (校内・校外)	校内
授業科目 概要	舞台のステージ衣装のデザインから縫製作品製作まで。			
習得 技術・知見	デザイン、テーマに沿ったディフォルメしたフォルムの作り方。			
企業連携 (連携企業)				
使用教科書 他教材	教科書、プリント			
授業課題	舞台衣装、子供服、ペット服等の縫製作品をチェックする。			
合計時間数	140	2年・通年		
授業計画及び学習の内容				
回	月 日	ステップ・課題目的・目標	内容	
1	4月14日	前期スケジュール、舞台衣装説明	スケジュール説明、自己紹介、グループチーム分け、デザイン作業	
2	4月21日	チーム分け、デザイン決め(1コーディネート)	デザイン決定、ハンガーイラスト描く、衣装構造打ち合せ	
3	4月28日	トワル前のパターン	パターン作業	
4	5月12日		パターン作業	
5	5月19日	トワル組みフォルムの確認	両身トワル組み作業	
6	5月26日		両身トワル組み作業	
7	6月2日		両身トワル組み作業	
8	6月9日	トワルチェック	トワルチェック作業	
9	6月16日		トワルチェック作業	
10	6月23日	パターンの補正、工業用パターン作成	縫い代付きパターン、パターン仕上げる	
11	6月30日		パターン仕上げる	
12	7月7日	買い出し、縫製作業スタート	縫製作業	
13	7月14日		縫製作業	
[成績評価方法]				
授業への参加・意欲・習熟度を100点、授業課題の評価を100点、定期試験を100点としてその平均値を算出し成績評価を行う。なお、出席率が75%未満、成績評価が60点未満の場合は補習の対象となる。出席率が65%未満の場合は、留年。				
[授業の特徴・形式と教員紹介]				
具体的な舞台、演目、アーティストの世界観になぞらえた作品作りと、そのイメージ構築を実践。 担当教員は株式会社コシノ・ジュンコデザインオフィスを経て、デザインオフィスを設立。オペラやミュージカル等の舞台衣装やアーティストのステージ衣装製作現場の経験が豊富であり、その経験・技術を活かし、実践に即した製作授業を展開する。				

授業科目名	スタイル画/デザイン演習	講師名	老川
実施 学科・クラス	基礎課程	分別(必修・選択・ 自由選択)	必修
授業方法(講義・ 演習・実技)	実技	場所 (校内・校外)	校内
授業科目 概要	1.造形作品を制作するための修練としてデッサンを行うことで、造形力・視覚的感性の向上をはかりバランス感覚やセンスを磨く。 2.ファッションスタイル画描画テクニックと表現力を身につける。(アウトライン、着色) ※後期アイテム名称、部分デザイン名称等について		
習得 技術・知見	ファッションスタイル画表現技法 デザイン、ドローイング用具の使い方		
企業連携 (連携企業)	特になし		
使用教科書 他教材	中型石膏デッサン用具、デザイン画用具		
評価方法 採点方法	授業姿勢、製作課題評価、ペーパーテスト(後期:アイテム・部分名称)		
合計時間数	97.5	1年・通年	

回	月 日	ステップ・課題目的・目標	内容
1	4月6日	休校(入学式)	
2	4月13日	授業オリエンテーション・デッサン用具準備	用具説明・準備、水張り、鉛筆削り
3	4月20日	石膏デッサン1(描始め)	構図、描き出し
4	4月27日	石膏デッサン2	大きな形と構図修正
5	5月11日	石膏デッサン3	陰影の描き分け、描き込み
6	5月18日	石膏デッサン4	描き込み
7	5月25日	石膏デッサン5	細部描き込み
8	6月1日	石膏デッサン6(仕上げ)	仕上げ、講評会
9	6月8日	人物クロッキー	10分クロッキー、服や布、人体構成バランス練習
10	6月15日	スタイル画1	8-9頭身スードバランスアウトライン
11	6月22日	スタイル画2	頭部(顔)、細部(手・脚)描画練習
12	6月29日	スタイル画3	応用ポーズ、ポーズ模写
13	7月6日	スタイル画4	スタイル画3作品をもとに着装(布・アイテムの表現)
14	7月13日	スタイル画5	スタイル画4をもとに着色(マーカー、ミックスメディア)
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			
39			

[成績評価方法]
 授業への参加・意欲・習熟度を100点、授業課題の評価を100点、定期試験を100点としてその平均値を算出し成績評価を行う。なお、出席率が75%未満、成績評価が60点未満の場合は補習の対象となる。出席率が65%未満の場合は、留年。

[授業の特徴・形式と教員紹介]
 ドローイング実習を中心に、デッサン、スタイル画や製品図などの描画テクニックをレクチャー。全ての各自作品について講評を行う。
 担当教員は一般アパレルでのファッションデザイナーのデザイナー経験をもつ担当教員である。

授業科目名	カラー		講師名	鈴木 章子
実施 学科・クラス	基礎課程		分別(必修・選択・ 自由選択)	
授業方法(講義・ 演習・実技)	講義、演習		場所 (校内・校外)	校内
授業科目 概要	1. AFT色彩検定3級公式テキストを使用し、AFT色彩検定3級の取得を目指す 2. イメージに合わせたカラーコーディネート 3. パーソナルカラー(人それぞれに似合う色)の概論			
習得 技術・知見	1→ AFT色彩検定3級の習得及び、AFT色彩検定3級の習得した色彩知識を仕事の現場に活かす方法を修得する。 2→表現したいファッションイメージに合わせてカラーコーディネートの提案が出来るようになる。 3→パーソナルカラーの概要を理解し、販売やメイクアップ、ヘアカラー、ファッションデザインなどそれぞれの分野に役立つ知識を 習得する(色彩応用編)。			
企業連携 (連携企業)				
使用教科書 他教材	AFT色彩検定3級公式テキスト、199bカラーカード、カラーカードリング、のり、はさみ、色鉛筆、絵の具、教科担当の資料、 プリント配布(各項目のレジュメ、各項目の小テスト、模擬テスト他)、プロジェクター、ホワイトボード、カラードレープ、鏡			
評価方法 採点方法	出席状況、授業態度(取組み姿勢)、授業内提出物、小テストや模擬テストの点数など、それぞれの項目ごとに段階評価 に落とし込みをし、学校で定められている 評価点方法に合わせて算出する。			
合計時間数	37.5時間		1年・前期	
回	月 日	ステップ・課題目的・目標	内容	
1	Apr9日	・色彩検定について ・色の表示1	色彩検定の概要や取得目的を知る 色の成り立ち、PCCS(表色系) テキストページP.32～48 *講義+実習*	
2	Apr16日	・色の表示2	PCCS テキストページP.39～48 *講義+演習*	
3	Apr23日	・色の表示3 ・色彩心理1	PCCSの色票制作 色の心理的効果 テキストページP.50～57 *講義+演習*	
4	Apr30日	・色彩心理2	色の視覚効果	
5	May7日	・PCCSを用いた色彩調和1 ・ファッションと色彩	配色と配色演習→提出 ファッションビジネスの世界と流行色、ファッションコーディネート(配色をファッションを通して習得) テキストページP.70～91とP.112～115 *講義+演習*	
6	May14日	・PCCSを用いた色彩調和2 ・ファッションと色彩	配色と配色演習→提出 ファッションビジネスの世界と流行色、ファッションコーディネート(配色をファッションを通して習得) テキストページP.70～91とP.112～115 *講義+演習*	
7	May21日	・PCCSを用いた色彩調和3 ・ファッションと色彩	配色と配色演習→提出 ファッションコーディネート(配色をファッションを通して習得) テキストページP.92～97とP.110～112 *講義+演習*	
8	May28日	・配色イメージ ・光と色(PCモニターや印刷物の色再現)	色の三属性(色相、明度、彩度)やトーンを用いた配色イメージ テキストページP.104～107 *講義+演習* 色が見えるしくみ、混色と混色の身近な応用例 テキストページP.10～30 *講義+演習*	
9	Jun4日	・検定直前対策1	出題ポイントを項目ごとに解説 *講義中心* ●光と色(色が見えるしくみ、照明と色の見え方、色を見る目のしくみ) テキストページP.10～30	
10	Jun11日	・検定直前対策2	出題ポイントを項目ごとに解説 *講義中心* ●色の表示(色名) テキストページP.128～135 ●インテリアと色彩(試験で出る範囲)テキストページP.118～125	
11	Jun18日	・検定直前対策3	PCCS他、出題ポイントを項目ごとに解説 *講義中心*	
12	Jun25日	・検定直前対策4 ・模擬試験&解説	PCCS他、出題ポイントを項目ごとに解説 *講義中心*	
13	Jul2日	・検定試験答え合わせ ・イメージに合わせたカラーコーディネート1 カジュアル、ロマンチック、エレガント、 モダン、シック、ナチュラル、クリア、ダイナミック	色彩検定3級公式テキストの8種類の配色イメージをイメージスケールを使用し理 解する。さらにファッションやメイクなどにおける8種類のイメージを理論に基づいて カラーコーディネートで表現。 *講義+演習*	
14	Jul9日	・イメージに合わせたカラーコーディネート2 簡単なファッションカラーボード制作	色彩検定3級公式テキストの8種類の配色イメージをイメージスケールを使用し理 解する。さらにファッションやメイクなどにおける8種類のイメージを理論に基づいて カラーコーディネートで表現。ファッションカラーボード制作→提出 *講義+演習*	

15	Jul16日	<ul style="list-style-type: none"> ・パーソナルカラー概論 ・好きな色からわかる顧客心理 ・ユニバーサルカラーデザイン 	<p>パーソナルカラー理論の知識を深め、パーソナルカラーを使ってカラーコーディネート演習を行なう。ミニ診断。 *講義+実習*</p> <p>好きな色からパーソナリティがわかる色彩心理応用編。 *講義中心*</p> <p>高齢化が進む中で、将来直面する問題に即した、色覚の多様性に配慮した、誰もが使いやすい色使いについて。 *講義中心*</p>
----	--------	---	---

[成績評価方法]
 授業への参加・意欲・習熟度を100点、授業課題の評価を100点、定期試験を100点としてその平均値を算出し成績評価を行う。なお、出席率が75%未満、成績評価が60点未満の場合は補習の対象となる。出席率が65%未満の場合は、留年。

[授業の特徴・形式と教員紹介]
 色彩検定合格を目指して、協会のテキストとオリジナルのテキストを使い講座を中心として行う。
 担当教員は協会から講師を紹介していただいている。

授業科目名	服飾史	講師名	古賀由紀夫
実施 学科・クラス	基礎課程	分別(必修・選択・ 自由選択)	必修
授業方法(講義・ 演習・実技)	講義	場所 (校内・校外)	校内
授業科目 概要	古代から現代までの衣服の歴史		
習得 技術・知見	衣服の歴史を知り、素材から形までを理解しデザイン、スタイリングに活かす。		
企業連携 (連携企業)			
使用教科書 他教材	世界服飾史 深井晃子		
評価方法 採点方法	平常点、ペーパーテスト		
合計時間数	37.5	1年・前期	

回	月 日	ステップ・課題目的・目標	内容
例)1	例)9月1日	例)用具名称・使用方法の理解	例)ミシン説明・使い方・用具準備
1	4月9日	オリエンテーション	なぜ衣服を着るのか、何を着たのか
2	4月16日	古代エジプト、メソポタミア	布を巻く
3	4月23日	古代ギリシャ、古代ローマ	大きな布を巻く
4	4月30日	ビザンチン、ロマネスク	形を作る
5	5月7日	ゴシック、ルネサンス	キリスト教と文化
6	5月14日	バロック、ロココ	宮廷と装飾
7	5月21日	フランス革命、ナポレオン	近代の衣服
8	5月28日	市民革命、産業革命	記事の量産、材料の変化
9	6月4日	世紀末	ファッションと文化、芸術
10	6月18日	20世紀	ヨーロッパ、アメリカの発展
11	6月25日	第一次大戦	女性の活躍
12	7月2日	アール・ヌーヴォー、アール・デコ	生活と芸術
13	7月9日	ペーパーテスト	
14	7月16日	アメリカの時代、第2次大戦、戦後	世界恐慌、オートクチュール

[成績評価方法]
授業への参加・意欲・習熟度を100点、授業課題の評価を100点、定期試験を100点としてその平均値を算出し成績評価を行う。なお、出席率が75%未満、成績評価が60点未満の場合は補習の対象となる。出席率が65%未満の場合は、留年。

[授業の特徴・形式と教員紹介]
説明・講義をしてから実習を行う。
担当教員はファッション関係の書物、出版などの経験ももつアーティストである。

授業科目名	服飾技術実習(造形)	講師名	中島
実施 学科・クラス	基礎課程	分別(必修・選択・ 自由選択)	必修
授業方法(講義・ 演習・実技)	実技	場所 (校内・校外)	校内
授業科目 概要	基本的な縫製技術を学ぶ		
習得 技術・知見	平面で製図したもので、用布を裁断・縫い合わせ・立体化し服の形となっていく工程の理解と縫製仕様の習得。		
企業連携 (連携企業)	なし		
使用教科書 他教材	教科書・プリント		
評価方法 採点方法	作品・試験		
合計時間数	542.5	1年・通年	

回数	月日	ステップ・課題目的・目標	内容
例)1	例)9月1日	例)用具名称・使用方法の理解	例)ミシン説明・使い方・用具準備
1	4月8日	ピンクッション製作<2~3>BCクラス入学式	デザイン・製図・裁断・実習 BCクラス休講
2	4月9日		
3	4月10日		まとめ・仕上げ
4	4月15日	基礎縫い<6>	裁断・実習
5	4月16日		
6	4月17日		
7	4月22日		
8	4月23日		
9	4月24日		
10	4月30日	セミタイトスカート製作<6>	製図・パターンM
11	5月1日		地直し・裁断・印つけ
12	5月7日		
13	5月8日		本縫い
14	5月13日		
15	5月14日		まとめ・仕上げ
16	5月15日	ジャン製作<9>	製図・パターンM
17	5月20日		
18	5月21日		裁断・印つけ
19	5月22日		本縫い
20	5月27日		
21	5月28日		
22	5月29日		
23	6月3日		
24	6月4日		
25	6月5日	ワンピース製作<18~19>	製図・パターンM
26	6月10日	(6/10スポーツイベント)	裁断・印つけ
27	6月11日		仮縫い合わせ
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			
39			
40			
41			
42			
43			
44			
45			
46			
47			
48			
49			
50			
51			
52			
53			
54			
55			
56			
57			
58			
59			
60			
61			
62			
63			
64			
65			
66			
67			
68			
69			
70			

71			
72			
73			
74			
75			
76			
77			
78			
79			
80			
81			
82			
83			
84			
85			
86			
87			
88			
89			
90			
91			
92			
93			
94			
95			
96			
97			
98			
99			

100			
101			
102			
103			
104			
105			
106			
107			
108			
109			
110			
111			
112			
113			
114			
115			
116			
117			
118			
119			
120			
121			
122			
123			
124			
125			
126			
127			
128			
129			
130			
131			
132			
133			
134			
135			
136			
137			
138			
139			
140			
141			
142			
143			
144			
145			
146			
147			
148			
149			
150			
151			
152			
153			
154			
155			
156			
157			
158			
159			
160			
161			
162			
163			
164			
165			
166			
167			
168			
169			
170			
171			
172			
173			
174			
175			
176			
177			
178			
179			
180			
181			
182			
183			
184			
185			
186			
187			
188			
189			

190			
191			
192			
193			
194			
195			
196			
197			
198			
199			
200			
201			
202			
203			
204			
205			
206			
207			
208			
209			
210			
211			
212			
213			
214			
215			
216			
217			
218			

[成績評価方法]
 授業への参加・意欲・習熟度を100点、授業課題の評価を100点、定期試験を100点としてその平均値を算出し成績評価を行う。なお、出席率が75%未満、成績評価が60点未満の場合は補習の対象となる。出席率が65%未満の場合は、留年。

[授業の特徴・形式と教員紹介]
 ミシンの使い方～基本的な縫製技術の実習。
 担当教員は株式会社キングなどでパタンナーとして勤務した経験があり長年の現場経験を活かし実践に即した製図・ドレーピング・ドレーピングの授業を展開する。

授業科目名	就職キャリアデザイン		講師名	担任
実施 学科・クラス	アパレル造形科・アパレル技能科		分別(必修・選択・ 自由選択)	必修
授業方法(講義・ 演習・実技)	講義		場所 (校内・校外)	校内
授業科目 概要	ビジネスマナー、アパレル業界の中で、どのようにキャリア形成していくか理解させる			
習得 技術・知見	実際に就職する企業において、キャリアプランを作成できるようにする。			
企業連携 (連携企業)	ヤングファッション研究所、ツツキ、玉屋、クレヨン等の人事課に講演依頼			
使用教科書 他教材	オリジナルプリントを作成			
評価方法	レポート提出と定期テスト			
採点方法				
合計時間数	35時間	2年・前期		
回	月 日	ステップ・課題目的・目標	内容	
例)1	例)9月1日	例)用具名称・使用方法の理解	例)マシン説明・使い方・用具準備	
1	4月7日	オリエンテーション		
2	4月14日	アパレル企業でのキャリアデザイン1	ヤングファッション研究所(予定) のキャリア形成プラン実例	
3	4月21日	アパレル企業でのキャリアデザイン2	ツツキ(予定) のキャリア形成プラン実例	
4	4月28日	アパレル企業でのキャリアデザイン3	玉屋(予定) のキャリア形成プラン実例	
5	5月12日	キャリア形成プランを作成しよう	個人ワーク	
6	5月19日	社会人基礎力について	自分の足りないものの理解	
7	5月26日	働くことについて	職業理解により自分が学ぶべき事項について理解	
8	6月2日	自己理解ワーク	TEGテスト実施、エゴグラムによる自己分析	
9	6月9日	右脳左脳	右脳左脳について学習して職業適性を考える	
10	6月16日	アパレル企業でのキャリアデザイン4	クレヨン(予定) のキャリア形成プラン実例	
11	6月23日	会社組織・労働法	働くうえで必要な労働法、社会保険等について	
12	6月30日	社会生活、食生活、経済生活の総論	社会生活に必要な知識	
13	7月7日	未来の働き方/自分のキャリアプラン	これからの時代における自分の働き方についてレポート	
14	7月14日	定期テスト	定期テスト	
[成績評価方法] 授業への参加・意欲を100点として成績評価を行う。なお、出席率が75%未満、成績評価が60点未満の場合は補習の対象となる。出席率が65%未満の場合は、留年。				
[授業の特徴・形式と教員紹介] 就職活動支援、企業人事担当者の講演。企業説明会など。				

授業科目名	就職ガイダンス	講師名	担任
実施 学科・クラス	基礎課程	分別(必修・選択・ 自由選択)	必修
授業方法(講義・ 演習・実技)	講義	場所 (校内・校外)	校内
授業科目 概要	就職活動支援、企業人事担当者の講演、企業説明会など。		
習得 技術・知見	業界、企業知識、就職活動。		
企業連携 (連携企業)	ヤングファッション研究所、ツツキ、玉屋、クレヨン等の人事課に講演依頼		
使用教科書 他教材	講師用意資料(随時)		
評価方法 採点方法	活動レポートなど		
合計時間数	57.5	1年・後期	

回	月 日	ステップ・課題目的・目標	内容
1	9月4日	大好きなことを仕事にしよう!	就職意識アンケート、就活スケジュール提示。
2	9月11日	業界研究①	アパレル業界の仕組みと現状について。
3	9月18日	業界説明会①	*アパレル企業人事部をお呼びして業界(企業)説明会実施。
4	9月25日	業界研究②	ファッションとマーケティング。アパレル業界の問題点。
5	10月2日	業界説明会②	*アパレル企業人事部をお呼びして業界(企業)説明会実施。
6	10月9日	業界研究③	アパレル業界の職種と職場マナーについて。
7	10月16日	求人情報の調べ方①	就活サイトの活用と情報収集、エントリーについて。
8	10月23日	求人情報の調べ方②	興味ある企業を20社リストアップし、その理由も記入。
9	11月13日	卒業生の就活体験①	*活躍する卒業生をお呼びして就活体験談をトークしてもらう。
10	11月20日	卒業生の就活体験②	*活躍する卒業生をお呼びして就活体験談をトークしてもらう。
11	11月27日	企業研究①店舗調査地域の決定	リストアップ企業から人気企業を数社選び、それぞれの店舗が集中する商業地域
12	12月4日	企業研究②店舗調査会(外出授業)	あらかじめ、グループ別に調査店舗を2~3店決めておき、店舗調査会を実施す
13	12月11日	企業研究③発表会	店舗調査の結果をグループごとにレポートを作成。そのレポートに基づいて、グ
14	12月18日	エントリーシート、履歴書の作成	志望理由の書き方等を指導。
15	12月25日	就職試験対策①筆記試験	適性試験、SPI、一般常識等の解説。
16	1月15日	業界説明会③	*アパレル企業人事部をお呼びして業界(企業)説明会実施。
17	1月22日	就職試験対策②筆記試験	適性試験、SPI、一般常識等の解説。
18	1月29日	志望企業リストアップと就活準備、就職室活用	志望企業の選定と入社試験前に準備すべきことの各自チェック。
19	2月5日	面接練習会①グループ面接	志望企業を想定した模擬グループ面接
20	2月12日	面接練習会②個別面接	志望企業を想定した模擬個人面接
21	2月12日	総括	就活スタートへの心構え

[成績評価方法]
授業への参加・意欲を100点として成績評価を行う。なお、出席率が75%未満、成績評価が60点未満の場合は補習の対象となる。出席率が65%未満の場合は、留年。

[授業の特徴・形式と教員紹介]
就職に関する基本姿勢を醸成、対応策についてガイダンス

授業科目名	服飾造形		講師名	山下
実施 学科・クラス	アパレル技能科テクニカルコース		分別(必修・選択・ 自由選択)	必修
授業方法(講義・ 演習・実技)	実習		場所 (校内・校外)	校内
授業科目 概要	縫製テクニック、縫製仕様、製図法、シルエット表現、素材の適応			
習得 技術・知見	高度な製品製図、縫製技術の習得。			
企業連携 (連携企業)				
使用教科書 他教材	服飾教本上、下 サブテキスト、プリント、その他参考資料			
評価方法 採点方法	製作課題、習得技術の習得度。			
合計時間数	375時間		2年・通年	
学期区分	回数	ステップ・課題・目標		
	1	テーラード基礎型		夏休み宿題提出 2点
	2	2枚袖 製図 開き見せ部分縫い		ジャケットデザイン提出
	3	テーラード 3面		
	4	テーラード 4面		
	5	各自4分の1又は実物大製図		用尺準備
	6	製図チェック		
	7	部分縫い、ベシツ		
	8	製図チェック パターン製作		
	9	準備工程説明 裁断		
	10	裁断、芯貼り、		
	11	遠足		
	12	〃		
	13	縫製工程説明(仮縫い)		
	14	ラグランズリーブ基礎型①		
	15	仮縫い準備 芯貼り		
	16	仮縫い、パターン修正		
	17	部分縫い(比翼)		
	18	仮縫い、パターン修正		
	19	ラグランズリーブ 基礎型②		
	20	縫製準備パターン修正		
	21	縫製 準備		
	22	本縫い 第一工程		
	23	〃		
	24	本縫い 第二工程		
	25	フード付きジャケット		
	26	本縫い 第三工程		
	27	本縫い 第三工程		
	28	〃		
	29	体型によるパターン修正		
	30	本縫い 第四工程		
	31	オニバーコード		
	32	本縫い 第四工程		
	33	〃 第五工程		
	34	〃		
	35	部分縫い、4種類		
	35	仕上げ		ジャケット提出 コートデザイン
	36	マントー		
	37	コート4分の1製図		
	38	実寸コート製図&チェック		コート用尺購入
	39	〃		
	40	コート 準備工程説明		
	41	準備工程(裁断 芯貼り 印つけ)		
	42	ラグランズリーブ(総型)		
	43	準備工程		
	44	縫製 工程説明		
	45	準備工程		
	46	本縫い 第一工程		
	47	〃		
	48	仮縫い(衿、フード、丈)		
	49	〃		
	50	本縫い 第二工程		卒業制作話し合い
	51	〃		
	52	本縫い 第三工程		
	53	〃		
	54	本縫い 第四工程		
	55	〃		
	56	本縫い 第五工程		
	57	〃		
	58	仕上げ		コート提出
	59	〃		
	60	卒業制作 モデル採寸 作品製図		用布準備
	61	〃		
	62	〃		
	63	シーチング組み立て		
	64	〃		
	65	シーチング仮縫い		
	66	〃 パターン修正		
	67	〃		
	68	〃		
	69	実物裁断 製作準備		
	70	〃		
	71	〃		

72	実物製作
73	〃
74	〃
75	〃
76	〃
77	〃
78	〃
77	〃
78	〃
79	〃
80	実物製作
81	〃
82	〃
83	〃
84	〃
85	〃
86	〃
87	〃
88	〃
89	〃
90	〃
91	〃
92	実物仮縫い修正
93	〃
94	製作
95	〃
96	〃
97	〃
98	〃
99	〃
100	〃
101	〃
102	〃
103	〃
104	〃
105	〃
106	〃
107	〃
108	〃
109	〃
110	最終チェック週 モデルフィッティング
111	修正
112	〃
113	〃
114	〃
115	〃
116	小物製作
117	〃
118	〃
119	〃
120	〃
121	〃
122	〃
123	衣装回収 15時～17時
124	教室作り
125	〃
126	〃
127	〃
128	審査用写真撮影
129	〃
130	ショー週間
131	〃
132	〃
133	〃

[成績評価方法]

授業への参加・意欲・習熟度を100点、授業課題の評価を100点、定期試験を100点としてその平均値を算出し成績評価を行う。なお、出席率が75%未満、成績評価が60点未満の場合は補習の対象となる。出席率が65%未満の場合は、留年。

[授業の特徴・形式と教員紹介]

説明・講義をしてから実習を行う。

担当教員は本校副校長として本校の製図様式池田式を指導し、長年の教鞭指導を行なっている。

授業科目名	卒業制作実習		講師名	
実施 学科・クラス	アパレル技能科	分別(必修・選択・ 自由選択)	必須	
授業方法(講義・ 演習・実技)	実技	場所 (校内・校外)	校内	
授業科目 概要	卒業制作作品製作			
習得 技術・知見	授業の課題で習得した事をさらに向上させる			
企業連携 (連携企業)	無し			
使用教科書 他教材	池田の教科書・今までに勉強して来たノート			
評価方法 採点方法	これまで学んで来た事を十分に活かしているかどうか			
合計時間数	157.5	2年・通年		

回	月 日	ステップ・課題目的・目標	内容
1		前期終了ショー作品制作	クラスでアイデアを出し合う
2			各自デザイン画を描く
3		製図	製図をする
4			々
5			々
6			シーチング仮縫い
7			々
8		縫製	生地裁断・芯貼り
9			々
10			縫製
11			々
12			々
13			々
14			完成
15		前期終了ショー	

[成績評価方法]
 授業への参加・意欲・習熟度を100点、授業課題の評価を100点、定期試験を100点としてその平均値を算出し成績評価を行う。なお、出席率が75%未満、成績評価が60点未満の場合は補習の対象となる。出席率が65%未満の場合は、留年。

[授業の特徴・形式と教員紹介]
 説明・講義をしてから実習を行う。
 担当教員は本校副校長として本校の製図様式池田式を指導し、長年の教鞭指導を行なっている。

授業科目名	卒業制作ファッションショー制作実習		講師名	リビ 裕子
実施 学科・クラス	アパレル技能科		分別(必修・選択・ 自由選択)	必須
授業方法(講義・ 演習・実技)	ショー企画、全体会議		場所 (校内・校外)	校内
授業科目 概要	ファッションショーのテーマおよびカテゴリ名を決める。衣装デザインを準備する。			
習得 技術・知見	話し合いの協調性・自己主張・デザインの発想力を養う。			
企業連携 (連携企業)	無し			
使用教科書 他教材	ノートパソコン			
評価方法 採点方法	協調性・自己主張・デザインの発想力を見る。			
合計時間数	37.5		2年・前期	
回	月 日	ステップ・課題目的・目標	内容	
例)1	9月1日	例)用具名称・使用方法の理解	例)ミシン説明・使い方・用具準備	
1	4月10日	リーダー決定	全体テーマ出し	
2	4月17日		仮決定	
3	4月24日		プレゼンテーション準備	
4	5月1日		理事長にプレゼンテーションをする	
5	5月8日	カテゴリ案出し	話し合い	
6	5月15日		仮決定	
7	5月22日		担当分け	
8	5月29日		プレゼンテーション準備	
9	6月5日		々	
10	6月12日		理事長にプレゼンテーションをする	
11	6月19日	カテゴリごとに分かれて	デザイン発想	
12	6月26日		々	
13	7月3日		デザインの打ち合わせをする	
14	7月10日		々	
15	7月17日	前期終了ショー		
[成績評価方法] 授業への参加・意欲・習熟度を100点、授業課題の評価を100点、定期試験を100点としてその平均値を算出し成績評価を行う。なお、出席率が75%未満、成績評価が60点未満の場合は補習の対象となる。出席率が65%未満の場合は、成績評価の対象外となる。				
[授業の特徴・形式と教員紹介] グループワーク、グループディスカッション。 担当教員は洋裁技術において内閣総理大臣賞を受賞。				

授業科目名	トレンド分析/ 産学連携		講師名	大滝 秀一
実施 学科・クラス	アパレル造形科デザイナーコース		分別(必修・選択・ 自由選択)	必須
授業方法(講義・ 演習・実技)	講義・演習		場所 (校内・校外)	校内90% / 校外10%
授業科目 概要	コレクショントレンドやマーケットの流れをとらえ、ブランドのコンセプトやマーケットでのポジショニングを理解し商品企画を行う。それをリアルに体験するために実践的に産学授業を取り込みアパレル業界の今を体験する。			
習得 技術・知見	ファッショントレンドの流れを把握するためにコレクションブランド分析を行う。そして今シーズンのトレンドの流れを踏まえつつ産学先のブランドに対して商品企画提案を行う。各社より課題テーマをいただき実際のアパレル業界が行っている手法での演習結果を業界のプロに提案し評価のフィードバックをいただく。			
企業連携 (連携企業)	無し			
使用教科書 他教材	モードエモード、講師資料、産学先資料			
評価方法 採点方法	商品企画課題、産学提携プレゼンテーション課題。産学課題の評価に関しては先方から10段階評価をいただく予定。			
合計時間数	87.5		2年・通年	
授業計画及び学習の内容				
回	月 日	ステップ・課題目的・目標	内容	
1	4月14日	トレンド分析と商品企画とは？	JILL STUART のシーズン商品のデザイン展開課題	
2	4月21日	2019F/Wのコレクショントレンド分析		
3	4月28日	↓	5つのブランドをピックアップ	
4	5月12日	↓	スタイリング・素材・カラー柄・アイテム分析 提出	
5	5月19日	年代別特徴まとめ	レポート(パワーポ)	
6	5月26日	雑誌編集企画テーマに合った商品企画	絵型作成(平絵にて)	
7	6月2日	↓		
8	6月9日	クレヨン店舗リサーチ	銀座のLois CRAYON 教寄屋橋店、LA BOUTIQUE Lois CRAYON 西銀座店	
9	6月16日	リサーチした結果をレポートにまとめる	パワーポにて	
10	6月23日	(株)クレヨン本社訪問	2020 F/Wのシーズンコンセプトの説明及び課題	
11	6月30日	産学課題作成		
12	7月7日	↓		
13	7月14日	↓		
14	9月1日	産学課題提出確認	提出	
15	9月8日	(株)クレヨン様講評予定	MD・人事業校予定 個別の講評いただく	
16	9月15日	マイブランド企画	コンセプト キーワード	
17	9月29日	↓	シーズンテーマ(イメージ) アプリケーション	
18	10月6日	↓	商品企画S/S F/W 2シーズン	
19	10月13日	↓	15型うつ3体×2=30型	
20	10月20日	↓	提出	
21	11月10日	玉屋ブランドリサーチ チームにて	リサーチ課題提出(パワーポ)	
22	11月17日	(株)玉屋東京本社訪問	企業説明及びブランドに関してレクチャーいただく	
23	11月24日	企画商品グループ案作成	チームにて	
24	12月1日	↓	社内コンペにトライする(チャンスバンクプロジェクト)	
[成績評価方法]				
授業への参加・意欲・習熟度を100点、授業課題の評価を100点、定期試験を100点としてその平均値を算出し成績評価を行う。なお、出席率が75%未満、成績評価が60点未満の場合は補習の対象となる。出席率が65%未満の場合は、留年。				
[授業の特徴・形式と教員紹介]				
説明・講義をしてから実務に即した企画書作成、プレゼンテーションなどを行う。 担当教員は大手アパレルの代表取締役経験を持ち、実務に即した課題や指導を行なっている。				